

### III 調査結果

## 1 アメリカ合衆国の読書環境・読書活動の実態

### 参考データ

- 国土面積:962.8 万 km<sup>2</sup> (2011 年現在)
- 人口規模:3 億 875 万人 (2010 年現在)
- 識字率:99% (2003 年現在)

### (1) 読書環境

#### ① 出版・書店の現状

##### a) 書籍/雑誌の出版・発行部数(電子書籍含む)

米国の書籍発行点数【新刊+重版】(2010 年)は、約 31 万点であった。これに小部数出版物(下表の「ノン・トラディショナル」)を加えると、アメリカにおける書籍発行点数は約 300 万点となる。なお、「ノン・トラディショナル」は多くが増刷分であり、著作権が消滅した書籍、また自費出版の書籍なども含まれる。

上述の通り、同国の 2010 年の書籍発行点数は約 31 万点であり、前年に比べて 5%程度増加している。一方、小部数出版物は約 300 万点であり前年に比べて 170%程度増加している。このような少数出版物は 2007 年以降急激に増加しており、特に 2009 年以降、増加が著しい。<sup>12,A</sup>

図表 1 書籍発行点数の推移(カテゴリー別)

題目	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010【予測】
農業	1,418	1,535	1,501	1,483	1,426	1,259	1,556	1,363	1,823
美術	6,574	8,431	8,779	8,762	9,201	9,291	10,304	9,860	11,325
伝記	6,873	9,837	9,765	8,904	11,271	11,414	11,375	13,795	12,517
ビジネス	6,918	7,614	7,905	7,885	8,719	7,722	8,873	9,351	10,873
コンピューター	7,564	8,955	6,928	6,092	5,472	6,069	5,638	5,276	7,978
料理	1,956	2,590	2,857	3,062	2,705	2,836	3,164	2,843	3,300
教育	6,829	7,562	7,135	6,951	6,449	7,162	9,640	9,578	10,360
フィクション	25,102	24,666	38,832	34,927	42,777	53,590	53,058	48,738	47,392
総記	2,085	2,195	4,266	2,017	2,078	2,211	2,400	2,562	3,040
歴史	11,362	13,192	14,191	12,686	15,241	14,406	13,477	15,480	13,682
家政学	1,434	1,628	1,760	1,634	1,755	1,775	1,644	1,656	1,933
児童向け	30,504	33,469	37,976	32,112	30,395	31,009	29,825	33,028	32,638
語学	5,924	6,899	6,088	5,669	5,134	4,879	6,181	5,426	6,019
法律	4,432	4,675	4,509	5,468	5,359	5,195	5,533	5,915	6,525
文学	6,261	6,493	7,972	6,297	8,227	9,974	10,843	11,456	8,158
医学	9,495	10,522	11,834	11,688	10,931	10,777	11,022	11,093	13,815
音楽	3,376	3,740	4,859	4,076	3,545	3,540	4,131	4,570	4,155
資産管理	473	402	552	542	582	582	598	699	696
哲学	8,894	10,040	11,410	10,556	12,961	13,098	12,605	13,949	15,681
詩、演劇	5,742	7,007	9,891	9,414	10,700	11,610	11,700	13,474	11,405
宗教	12,253	14,517	21,669	16,785	19,854	19,540	18,296	20,527	19,793
科学	11,688	12,962	12,639	12,626	12,655	12,714	14,100	15,608	21,414
社会学、経済学	20,969	23,530	23,222	23,750	27,675	24,546	24,737	26,904	28,991
スポーツ、リラクゼーション	5,800	6,323	6,196	6,438	6,666	6,362	6,262	5,971	7,086
テクノロジー	6,896	7,142	7,753	7,138	7,262	7,131	7,666	8,688	11,746
旅行	4,316	4,172	5,304	4,941	5,376	5,678	5,101	4,800	4,496
小計	215,138	240,098	275,793	251,903	274,416	284,370	289,729	302,410	316,480
ノン・トラディショナル*	32,639	26,224	19,730	30,597	21,936	123,276	271,851	1,033,065	2,776,260
合計	247,777	266,322	295,523	282,500	296,352	407,646	561,580	1,335,475	3,092,740

出所: New Book Titles and Editions, 2002-2010 (Bowker)

### b) 出版社や書店の事業者数・売上高・従業員数

米国書籍出版協会（Association of American Publishers）が発表している関連統計（BookStats）によると、出版業界の売上高は近年増加傾向にある。2010年の年間売上高は279億4千万ドルであり、2008年に比べて5.6%増加している。また、2010年の発行部数は25億7千万部であり、2008年と比べると4.1%増加している。

一般書籍市場（フィクション、ノンフィクションなど※電子書籍除く）の2010年の売上高は、139億4千万ドルであった。2008年から比べると、5.8%の増加となっている。大人向けのフィクション、子ども向けのフィクション、ノンフィクションともに毎年、売上高が増加している。

高等教育関連書籍市場はの2010年の売上高は約45億ドルであった。2008年に比べて23.1%増加している。なお、アメリカの出版市場で2番目の規模である「K-12（幼稚園～高等学校卒業までの子ども対象の書籍 ※教育関連書籍に限らない）」の2010年の売上高は55億ドルであった。

専門書籍市場（科学、医療、ビジネス、法律、人文などの専門書籍）の2010年の売上高は37億ドルであった。2008年に比べると6.3%増加している。<sup>11</sup>

また、電子書籍市場の成長が著しい。アマゾンのキンドル、アップル社のipadなどの電子書籍閲覧端末の市場への投入で電子書籍市場が急成長しており、電子書籍は出版ビジネスで重要な地位を占めてきている。<sup>A</sup> 米国出版協会（AAP）によると、米国の2012年1～3月の電子書籍の売上高は、2億8,230万ドルであり、前年同期に比べると28.1%増加している。<sup>13</sup>

## ■出版社の動向

米国の書籍出版界は、第一次世界大戦や大恐慌、第二次世界大戦の際の低迷はあったものの順調な発展を遂げている。1960年代初頭からは大手企業による出版社の所有権取得が集中して行われ、出版の産業化が進展した。この頃に、巨額の宣伝費を投入して意図的にベストセラーを作り出す方法「ブロックバスター」も一般的になっている。

1990年以降は、コングロマリット・メディア企業（出版・新聞、映画、放送など多様なマスメディアを傘下に収める複合企業）の出版社売買が加速、チェーン書店の進展、オンライン書店が急伸するなどした。このような出版業界の進展は1960年代に出版企業が投資対象として注目されたことを発端としている。出版界は、1990年代のコングロマリット・メディア企業間のメディア再編の動きに飲み込まれる形でその様相を大きく変えた。米国の主要な書籍ブランド（インプリント）は、外国資本を含めた大手コングロマリット・メディア企業傘下の出版社となっている。大手コングロマリット・メディアとしては、ベルテルスマン（独）、ピアソン（英）、ニューズ・コーポレーション（米）、ヴァイアコム（米）、アシェット（仏）が挙げられる。この5グループの合計売上は、米国全体の一般書売上の半数近くを占める。<sup>A</sup>

## ■書店の動向

米国の書店は、1990年代に入って、大手チェーン書店（バーンズ&ノーブル、ポーター

ズ・グループ など)を中心に活性化した。このような書店は、ベストセラー書籍を大量に仕入れ、豊富な品ぞろえ、また店内スペースを演出するなどして心地よい空間をつくるなどして集客に成功している。

一方で、1995年頃からはアマゾンなどのオンライン書店が急成長を遂げている。このようなオンライン書店は、2008年には、書籍販売のシェアを23%にまで伸ばし、チェーン書店のシェア(22%)を抜いた。

オンライン書店の売上高について、2008年のアマゾンのシェアは全体の43%を占めている。同年の大手チェーン書店(主要3社)の売上高合計は前年度より減少となっており、合計売上高が減少に転じた最初の年であった。

オンライン書店の売上額内でのアマゾンのシェアは2008年、43%を占める。また同年ボックス・ア・ミリオンを加えた主要大手3チェーン書店の売上合計が前年より減少しており、これは同3グループが売上高の統計を取り出してはじめてのことである。大手チェーン書店のポーターズは2008年、モール店展開の中小型店「ウォルデン」を112店閉鎖。またバーンズ&ノーブルも個店を33店閉鎖し再構築を模索している。<sup>A</sup>

## ■雑誌業界の動向

雑誌業界では、これまで長く続いてきたビジネスモデル(購買部数増加による広告収入の増加)が崩れてきている。2008年の雑誌業界は、雑誌売上、広告収入ともに低迷している。年間雑誌広告ページ数の減少は前年比11.7%減、店頭売りの部数は2008年下期で前年比11.1%減であった。加えて、マーケティング、用紙、取次流通などの経費も増加してきている。

雑誌業界では、雑誌のウェブサイトを立ち上げ、デジタルビジネスの確立に注力しているが、一部の雑誌を除いて、デジタル広告収入はそれほど大きくはない。また、依然として雑誌の創刊数は多い。<sup>A</sup>

### c) 書籍・雑誌の流通の仕組み

アメリカの書店の一般的な仕入れ方法は、出版社からの直接購入である(但し、書店と出版社の間に卸売業者が介在する)。介在する卸売業者は規模が小さく地域を限定して事業を行っている卸売業者で主であったが、近年では、全国規模で事業展開する卸売業者(イングラム・ボックスやベーカー&テラー など)を利用するケースが増えてきている。今後、このような卸売業者は、単に配送業にとどまるのではなく、全国規模で卸取次業(ディストリビューター)に発展していくことが望まれている。

アメリカの書店の商品構成は日本とは大きく異なっている。アメリカの(チェーン書店など大型書店ではない)一般的な書店では、書籍を中心とした商品構成であり、雑誌はあまり置かれていない。仕入れ条件としては、一般的にボリューム・ディスカウント制が採られており、仕入れ冊数が多い程、安く仕入れることができる。

アメリカでは、書籍販売の委託制がなく、個店の責任販売制が確立している。このため、自らの書店の商品構成は、自らの責任で構成することとなる。結果として、アメリカには、総合書店が少なく、個店の特徴を反映した商品構成とする特化型の書店が多い。また、再販売価格維持制度がなく、街の書店は、大型チェーン書店のディスカウント商法と戦いながら書店を経営していくこととなる。<sup>01</sup>

## ② 図書館等の現状

### a) 図書館制度及び司書制度の状況

#### ■図書館制度

アメリカの大半の公共図書館は、地方公共団体（市町村などの地方自治体など）が設置母体となっている。このような地方公共団体が、それぞれ州法に従って公共図書館を設置・運営している。設置された公共図書館の管理機関は、一般的に「図書館委員会」と呼ばれる。<sup>01</sup>

#### ■司書制度

同国では、司書（librarian）はアメリカ図書館協会（ALA）認定の図書館情報学大学院で修士号を取得した者を指す。こういった人材は、地域館レベル管理職の「librarian manager」、さらに中央館の館長「library director」の地位で働くことが多い。

但し、近年は、図書館業務の非専門職化が進んでおり、地方部の小規模図書館では、上記のような「librarian」を雇用することが困難な状況となっており、代替人材として、コミュニティー・カレッジなどで図書館関係科目を取得した人材（=para-professional）を雇用している現状がある。

### b) 図書館/学校図書館の施設数(設置者別)

#### ■公共図書館の設置数

アメリカ合衆国の地域別公共図書館数は以下の通り。人口の割合が都市及び郊外に集中している一方、公共図書館の件数割合は、地方部に集中している。

図表 2 地域別公共図書館数

種類	図書館数	割合	都市・地域の種類	図書館数	割合	人口の割合
都市	490	5.3%	大規模都市	73	0.8%	35.6%
			中規模都市	116	1.3%	
			小規模都市	301	3.3%	
郊外	2,079	22.5%	大規模郊外	1,697	18.4%	36.9%
			中規模郊外	222	2.4%	
			小規模郊外	160	1.7%	
町	2,245	24.4%	周辺の町	324	3.5%	15.1%
			中距離の町	1,131	12.3%	
			遠距離の町	790	8.6%	
地方	4,411	47.8%	周辺の地方部	591	6.4%	12.3%
			中距離の地方部	2,073	22.5%	
			遠距離の地方部	1,747	18.9%	
合計	9,225	100.0%		9,225	100.0%	100.0%

出所： Public Library Survey Fiscal Year 2009 (Institute of Museum and Library Services)

上述の通り、公共図書館の殆ど（85.3%）は何らかの自治体に関連した公共機関である。2009年度における公共図書館の設置者の52.9%は地方自治体、同様に、9.8%は郡/行政区、3.4%は政府間協定に基づいた総合司法区域、2.0%は学校区、1.0%は市/郡、1.5%は「その他」である。残りの14.8%は、非営利団体によって運営されている（非営利団体が設置している図書館も基本的には各州において公共図書館の法的定義に適合している）。

公共図書館の大部分(76.7%)は、連邦もしくは協力サービスのメンバーであり、そのうち1.2%は連邦もしくは協力サービスの本部の役割を担っている。残りの公共図書館(23.3%)は、このようなネットワークに属していない。<sup>02</sup>

図表 3 設置者別公共図書館の割合

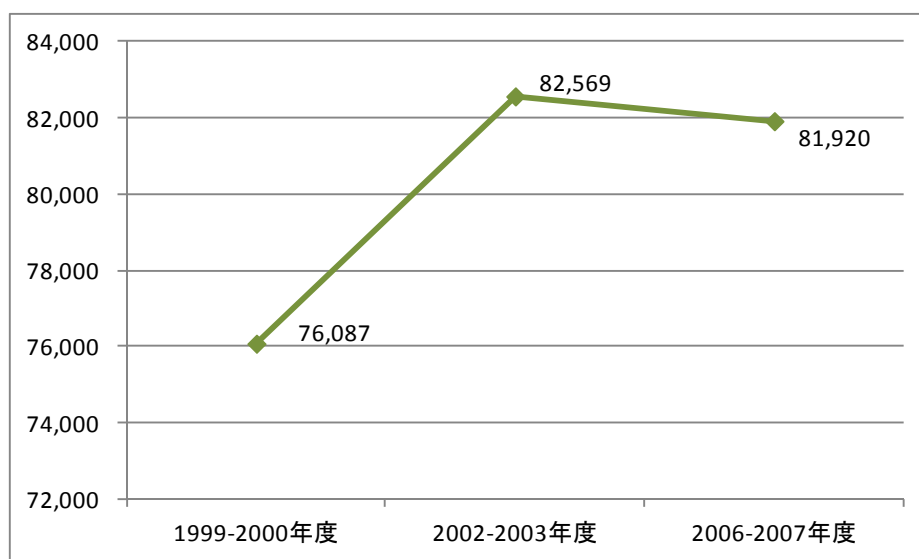
設置機関	割合 (%)
地方自治体 (Municipal government)	52.9
郡/行政区 (County / parish)	9.8
市/郡 (City/ county)	1.0
総合司法区域 (Multi-jurisdictional)	3.4
非営利団体 (Nonprofit association of agency libraries)	14.8
学校区 (School district)	2.0
図書館区 (Library district)	14.7
その他 (Other)	1.5
合計 (n = 9,225)	100.0

出所 : Public Library Survey, FY2009 (Institute of Museum and Library Services)

### ■学校図書館の設置数

米国の学校図書館数の推移は、以下の通り。1999-2000年度から2002-2003年度にかけて増加、その後、微減傾向にある。<sup>08</sup>

図表 4 学校図書館数の推移



出所 : The Condition of U.S. Libraries: School Library Trends, 1999 - 2009 (American Library Association)

## c) 図書館/学校図書館の蔵書数・司書数(職員数)

## ■蔵書数

公共図書館の蔵書数合計は9億3,480冊以上あり、2000年度以降14.8%増加している。一人当たりの紙の蔵書が減少しているのは、公共図書館の収集の性質が変化し、蔵書の種類が多様化していることを示唆している。<sup>02</sup>

図表 5 公共図書館の蔵書構成

種類	2000年	2004年	2009年
紙	93.4%	90.7%	87.3%
オーディオ	3.9%	4.4%	5.7%
ビデオ	2.7%	4.1%	5.4%
電子書籍		0.9%	1.6%

出所：Public Library Survey, FY2009 (Institute of Museum and Library Services)

一方、学校図書館の蔵書数は、2011年現在で、平均12,989冊となっている。その他、学校図書館等の蔵書数等の推移は以下の通り。これらの数値は、「米国学校図書館員協会(AASL)」が統計調査を行いとりまとめている。<sup>07</sup>

図表 6 学校図書館・蔵書数等の推移(平均)

	2007	2008	2009	2010	2011
蔵書数	12,889	12,672	13,086	12,741	12,989
定期刊行物購読数	22.8	23.7	30.6	27	27
ビデオ数	445.9	471.7	495.6	470.7	457.3
オーディオ数	86.3	89.9	98.4	98.6	94.2

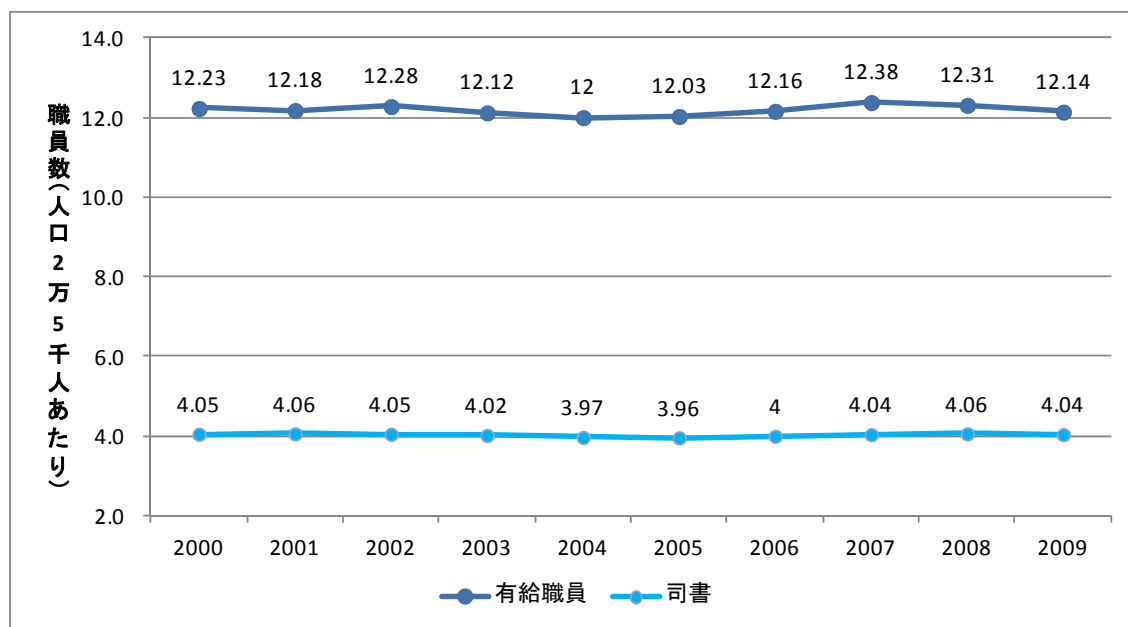
出所：School Libraries Count! National Longitudinal Survey of School Library Media Programs (AASL)

■司書・職員数（公共図書館）

2009年度の公共図書館に勤務する司書は48,015人で、うち32,977人（68.7%）は米国図書協会(American Library Association)によってライブラリー・サイエンス修士を認定されている。司書に加え、公共図書館は96,246人の職員を有給で雇用している。

職員の配置は下表の通り。この10年以上特段の増減なく推移している。2009年度の公共図書館における有給の職員数は、人口25,000人に対し12.14人だった。これらの職員のうち、4.04人が司書であった。有給の職員、司書ともに、この10年間における人数の変化は1.0%以下である。<sup>02</sup>

図表 7 司書及び職員人数（人口2,500人あたり）の推移



出所：Public Library Survey, FY2009 (Institute of Museum and Library Services)

■職員数（学校図書館）

米国の学校図書館の司書数は以下の通り。<sup>09</sup>

図表 8 学校図書館の司書数

	伝統的な公立校	民間運営の公立校
学校図書館数	80,100	1,820
司書		
フルタイム	63.1%	20.7%
パートタイム	11.0%	5.2%
無資格	27.0%	74.0%
修士	56.6%	29.4%

出所：Results from the 2007 - 2008 Schools and Staffing Survey, Public and Bureau of Indian Education

Elementary and Secondary School Library Media Centers (National Center for Education Statistics)

## d) 図書館/学校図書館の予算規模

## ■公共図書館の予算規模

公共図書館の収益源の割合はこの10年間で変化している。多くの州で、2009年度の予算内訳で最も割合が高かったのは自治体からの予算であった。自治体からの予算は、その割合も予算額もこの10年で増加している。同時に、州政府からの貢献は、特定の州を除き、予算額・割合ともに減少している。<sup>02</sup>

図表 9 公共図書館の予算内訳

	金額(千ドル)	割合(%)
連邦	46,868	0.4
州	873,327	7.5
自治体	9,757,162	84.2
その他	916,423	7.9
合計	11,593,779	-

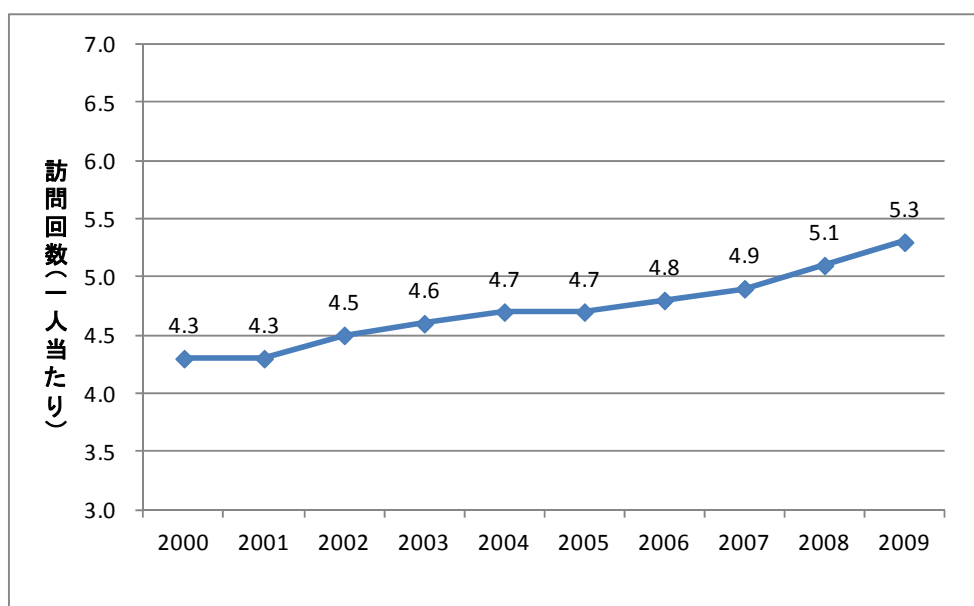
出所：Public Library Survey, FY2009 (Institute of Museum and Library Services)

## e) 図書館/学校図書館の利用者数・貸出冊数

## ■公共図書館利用者数

アメリカでは、2009年度、10億5,900万人が公共図書館を訪れている。前年度と比べると5.7%増加している。国民ひとり当たりの図書館年間利用回数はこの10年間増加傾向にある。<sup>02</sup>

図表 10 公共図書館の年間利用回数



出所：Public Library Survey, FY2009 (Institute of Museum and Library Services)



**f) 電子書籍への対応**

米国の公共図書館の 61%が電子書籍を提供している（対象人口では 84%に相当）。さらに、州内の全ての公共図書館で電子書籍が提供されている州は 12 州となっている。なお、提供が進んでいない図書館の多くは予算の少ない小規模図書館と推測されている。<sup>10</sup>

2000 年度、紙の書籍は公共図書館の蔵書の 94.3%を占めていたが、2009 年度には、87.3%にまで低下した。対照的に、オーディオ、ビデオは 2000 年度には蔵書のわずか 6.6%だったが、2009 年度には 11.1%にまで増加した。全体の蔵書に占める割合はまだ少ないが、電子書籍は 2009 年度、公共図書館の蔵書の 1.6%を占めており、2004 年度以降 89.2%増加した。<sup>02</sup>

## (2) 読書推進活動

---

米国における読書推進活動として、例えば以下のようなものが挙げられる。

### ■ Big Read

---

#### 概要

「Big Read」は、米国の国立芸術基金（National Endowment of Arts ; NEA）が、2006年から実施している地域の読書推進活動を支援するプログラムである。このプログラムは、博物館・図書館サービス機構（Institute of Museum and Library Services ; IMLS）及び芸術支援団体（Arts Midwest）との連携で行われている。

NEAは、当初、10地域を対象に試験的にプログラムを開始。2007年からは対象地域を100以上に拡大して本格的に実施した。2009年9月～2010年6月までの第6期は、過去最多となる約270の地域で実施されている。

Big Readに参加したい地域は、NEAに申請の上で審査を受けることとなる。参加主体は、基本的に図書館等の公共機関や非営利団体等となる。助成金は2,500ドルから2万ドル（約23万円から約180万円）の範囲となっており、主催者側でも助成金と同額の資金を用意する必要がある。第6期の助成金の総額はおよそ370万ドル（約3億4千万円）であった。

04

#### 地域の取組

地域全体の活動を促進させるためには、図書館、学校、大学、芸術団体、地方自治体、マスメディア、出版社、書店等の官民の各機関とのパートナーシップが必要となる。

各地域の主催者は、NEAによる事前のオリエンテーションで、実務的な知識や過去の実践例を学んだり、他地域の主催者と意見交換を行うなどして準備を行う。NEAからは、作品についての資料（読者用ガイド、音声ガイド等）や広報用キット（ポスター、横断幕等）、情報を掲載したウェブサイト等が提供される。

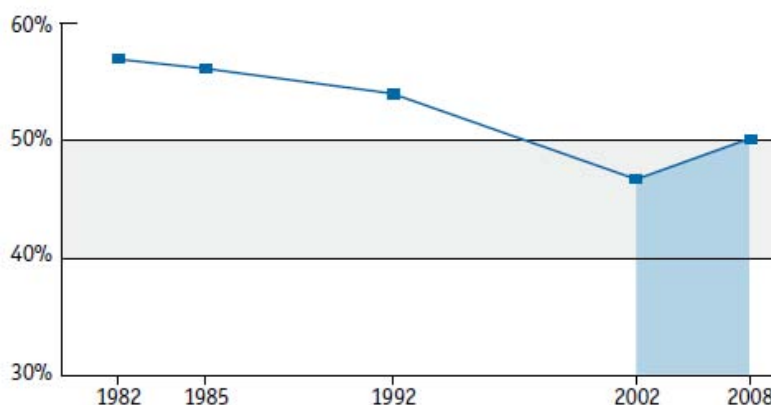
各地域で開催されるイベントの種類としては、市長等が参加するオープニングイベント、対象作品を主内容としたイベント（パネルディスカッション等）、対象作品に関連したイベント（映画上映等）等がある。選定作品を多くの人に読んでもらう手段として、多くの主催者が、ペーパーバック版を大量に購入し住民に無料で提供している。図書館や学校だけでなく、バスターミナルや薬局等、様々な場所で配布されている。また、地元メディアへの取材依頼や新聞広告等、認知度を高めるための工夫も実施している。<sup>04</sup>

#### 施策効果

NEAは2009年に『Reading on the Rise』という報告書を発表した。これは、NEAが行っている、読書に関する調査の報告書である。同報告書では、例えば、「成人男女が文学

作品を読む割合」についても報告されており、2002年に50%をきった割合が、その後上昇に転じていることが報告されている。<sup>04</sup>

Percentage of Adults Who Read Literature: 1982-2008



出所：Reading on the Rise (National Endowment for the Arts)

このように2002年時点で、比率が初めて50%を下回っており、その報告書『危機にある読書』(Reading at Risk)では、読書活動の衰退とそこから起こりうる社会への悪影響への危機感が示された。このような状況を受け、その後、官民での様々な読書推進・リテラシー向上のための活動が行われており、「Big Read」も、その一環として実施されたものであった。<sup>04</sup>

## ■ EVERYBODY WINS! USA

「EVERYBODY WINS!」は、1981年、低所得者層の子どもが通う小学校で週に一度、一対一で読み聞かせを行うボランティアのネットワークとして発足したアメリカの非営利団体である。ネットワークは現在、アメリカの16の州とワシントンD.C.に存在し、識字率のギャップを埋めるためにボランティアによる子どもたちへの読み聞かせが行われている。

03

### (3) 読 書 活 動

近年の米国の国民の読書活動（読書率など）に関する調査として、例えば、以下が挙げられる。

#### ■PISA

世界各国の15歳（高校1年生）を対象に行われるOECD生徒の学習到達度調査（PISA）の2009年の結果では、「趣味で読書をすることがない（42.0%）」「1日30分以下（29.3%）」「1日31分～1時間未満（15.1%）」「1日1時間～2時間（8.7%）」「1日2時間より長い（4.9%）」となっている。<sup>D</sup>

#### ■全米芸術基金"To Read or Not To Read"

2007年に、全米芸術基金(National Endowment for the Arts)が、40件の読書調査の統計をもとに米国の子ども・ティーン・成人の読書に関してとりまとめた報告書"To Read or Not To Read"を発表した。

例えば、2004年、全米芸術基金「Reading at Risk: A Survey of Literary Reading in America（読書の危機：アメリカにおける読書調査）」によれば、アメリカのほぼ全ての人口層において、フィクション、詩、演劇など一般的な書物を読む割合が10年～20年前と比較すると顕著に低下していることがわかった。特に若者の間で読書率は急低下していた。また、最近の調査では、アメリカ人の生活における自由読書の役割が減少したことが証明されている。

連邦機関によって行われた研究を含む、様々な信頼できる統計データを集計してみると下記の3つの結果が出てきた。<sup>05</sup>

- ▶ アメリカ人の読書時間は減少している（毎日読書をする13歳の子どもは3人に一人で、20年前と比較すると14%減少している。読書をしない17歳の若者の割合は20年間で倍になった）
- ▶ 読解力が低下している
- ▶ 読書量の減少は、文化的・社会的・経済的な影響をもたらすものと考えられる。読書量の多い個人は、人間性、または職業的、社会的に優位に立つことができる。経営者の大半が、採用の際、読解力を重視しているが、多くの経営者は被採用者の読解力が不足していると考えている。また、読書をする人は、読書をしない人に比べて、ボランティア活動やスポーツ、文化イベントへの参加などの社会的活動に、より積極的に参加する傾向があった

次ページ以降で、"To Read or Not To Read"で報告されている内容を、いくつか紹介する。

●若者は全体的に読書をする割合が減少している

- ・18歳から24歳までのアメリカ人では、半数以上が楽しみのために読書をしていない。
- ・18歳から44歳までの読書率は1992年から2002年までで7ポイント低下している。

【仕事・学校で必要とされていない読書をする若者の割合】

年齢グループ	1992	2002	変化	減少率
18-24	59%	52%	-7pp	-12%
25-34	64%	59%	-5pp	-8%
35-44	66%	59%	-7pp	-11%
全ての成人(18歳以上)	61%	57%	-4pp	-7%

pp=パーセンテージ・ポイント

●ティーンエイジャーの間では活動としての読書の割合が減少している

- ・13歳で毎日読書をする割合は3分の1以下
- ・17歳で楽しみのために全く読書をしていない人の割合は20年間で2倍以上になった。しかし、学校または宿題のための読書量は変わっていない。(62%の生徒が15ページ以下の読書をする)

【楽しみのための読書をする生徒の割合】

読書頻度	13歳			17歳		
	1984	2004	変化	1984	2004	変化
全く読まない、殆ど読まない	8%	13%	+5pp	9%	19%	+10pp
ほぼ毎日読書をする	35%	30%	-5pp	31%	22%	-9pp

pp=パーセンテージ・ポイント

- ・幼年期から青年期までの自由読書の割合は減少している。

【ほぼ毎日楽しみのために読書をする生徒の割合】

	1984年	1999年	2004年
9歳	53%	54%	54%
13歳	35%	28%	30%
17歳	31%	25%	22%

	最低5分	最低30分
8~10歳	63%	40%
11~14歳	44%	27%
15歳~18歳	34%	26%

●大学への出席率は読書習慣を保証するものではない

- ・読書は教育レベルと密接に関係するが、大学卒業者の本を読む割合は低下している。

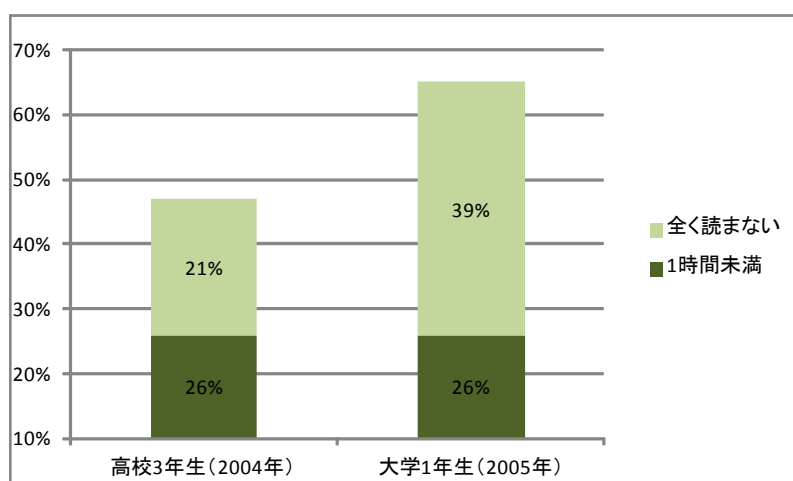
【読書をする大学生の割合】

1982	1992	2002	変化 1982-2002	減少率 1982-2002
82%	75%	67%	-15pp	-18%

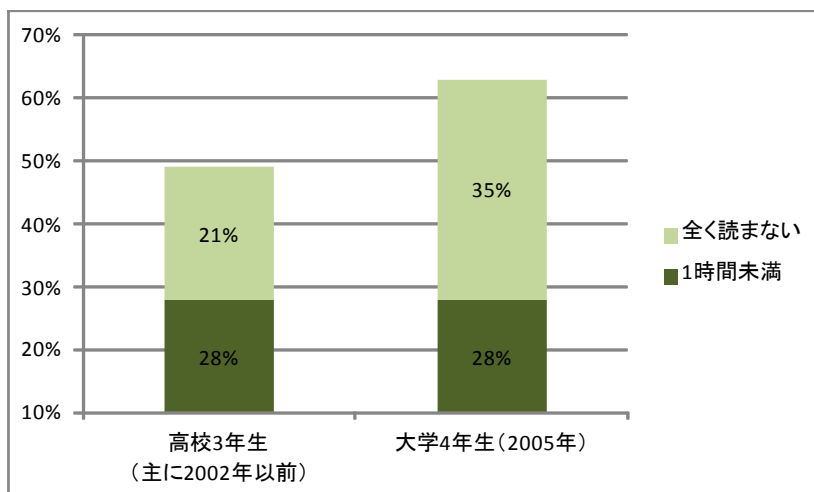
pp=パーセンテージ・ポイント

- ・大学1年生の楽しみのための読書時間は、65%が週に1時間以下もしくは全くない。
- ・この中で全く読書をしない学生の割合は、高校卒業以来18ポイントにも上りほぼ二倍になった。
- ・彼らが大学の4年生になるころには、学生の3人に1人は、一週間で楽しみのために読書をする時間が全く無くなる。

【ほとんど/全く楽しみのための読書をしない大学1年生の割合】



【ほとんど/全く楽しみのための読書をしない大学4年生の割合】



●ティーンエイジャー、若者は他の年齢層よりも読書時間が少ない

- ・15歳から34歳までのアメリカ人は、他の年齢層グループよりも読書に費やす時間が少ない。

- ・15歳～24歳までの若者は1日にわずか7～10分しか自由読書に費やしていない。平均的なアメリカ人より約60%も少ない。
- ・対照的に、15歳～24歳までの若者は一日に2～2.5時間をテレビに費やしている。テレビ観賞は、男性・女性、全ての年齢層において最も活動時間が長かった。

【2006年の平均読書時間】

	時間/分	
	平日	週末及び休日
合計(15歳以上)	: 20	: 26
15-24歳	: 07	: 10
25-34歳	: 09	: 11
35-44歳	: 12	: 16
45-54歳	: 17	: 24
55-64歳	: 30	: 39
65歳以上	: 50	1:07

- ・読書時間はインターネット利用が増加した時期に著しく低下している。1997年から2003年、18歳から24歳までの若者の間で、家庭でのインターネット利用は53%急増した。他の推計によると、18歳から29歳までで、家庭でブロードバンド接続ができる人の割合は2005年から2007年までに25ポイント増加した。

【文学作品を読む18歳～24歳の割合】

	1982年	1992年	2002年
文学作品を読む割合	60%	53%	43%
1982年からの変化	#	-7pp	-17pp
1982年からの減少率	#	-12%	-28%

pp=パーセンテージ・ポイント

- 読書をしている間も他のメディアを利用している。この並行作業は、文章に集中していないということを示唆している。
- ・中高生の58%は、読書をしている間も他のメディアを利用している。
- ・生徒達は、毎週の読書時間の35%は、他のメディアを利用している。
- ・生徒たちの読書時間の20%は、テレビ観賞、ビデオ・コンピューターゲーム、インスタント・メッセージ、Eメールやウェブ・サーフィングなどと並行している。

【読書中に他のメディアを利用する割合】

	読書中にその他のメディアを使用する割合
大部分の時間	28%
ときどき	30%
大部分／ときどき	58%
ほとんど使用しない	26%
全く使用しない	16%
ほとんど／全く	42%

## 【読書中に利用する他のメディアの利用時間の割合】

	読書時間の割合
テレビ	11%
音楽	10%
コンピュータで宿題をやる	3%
ビデオゲーム	3%
コンピュータ・ゲーム	2%
コンピュータ利用(その他)	2%
インスタント・メッセージ	2%
Eメール	1%
ネット・サーフィン	1%
上記のメディアのいずれかを使用する	35%

## ●アメリカ人はあまり読書をしない

- ・読書量が減るに従い、特にティーンエイジャーや成年男子の間で、読解力も低下している。対照的に、9歳児の読解力の平均スコアは改善している。

## ●17歳の読解力の点数は低下している。

- ・17歳の読解力の平均点は1992年から徐々に下降している。
- ・30年以上にわたり、この年齢層は読解力の点数を改善できていない。
- ・9歳児は自由読書において低下がみられず、読解力も常に高い。

## ●高校3年生では、読解力の平均点は全ての読解のレベルにおいて実質的に低下している。

- ・読解力に優れている高校3年生は全体の3分の1をわずかに上回る程度。

## 【読解力に優れている高校3年生の割合】

1992年	2005年	変化	減少率
40%	35%	-5pp	-13%

pp=パーセンテージ・ポイント

- ・1992年から2005年、下位の読者層では90%の平均点が低下している。2005年の上位



の読者のみスコアを維持している。

【高校3年生の読解カスコアの変化：1992年及び2005年】

パーセンタイル	1992年	2005年	変化	
90th	333	333	0	
75th	315	313	-2	
50th	294	288	-6	
25th	271	262	-9	
10th	249	235	-14	

- ・読解力のギャップは男子と女子の間で広がっている。

【高校3年生の読解カスコア平均、男女別】

	1992年	2005年
女子	297	292
男子	287	279
男女間の差	-10	-13

●読解力の低下は、社会的・経済的に影響を及ぼす

読解力に優れた人には、個人的、職業的、社会的なアドバンテージが生じる。

●雇用者は、新規雇用において最も不足しているのは読み書き能力であると位置付ける。

- ・雇用者の63%は読解力の基礎は「非常に重要」としているが、雇用者の38%は、高卒者は読解力が「不足している」と考えている。
- ・「文書によるコミュニケーション」は、高卒・大卒者に共通して不足している応用力の上位である。
- ・アメリカ人労働者の5人に1人は、職業で求められている技量よりも読解力が低い。
- ・読み書きの補習コースは、大企業の社員の場合31億ドル以上の費用がかかると推計され、連邦職員には2200万ドルのコストが予想される。

## 【雇用者が重要だと考える能力】

読解力	63%
英語	62%
英語の文章力	49%
数学	30%
外国語	11%

## 【雇用者が高卒者に不足していると考えられる能力】

英語の文章力	72%
外国語	62%
数学	54%
歴史／地理	46%
政治／経済	46%
科学	45%
読解力	38%
人文／芸術	31%
英語	21%

## 【新入社員には下記の応用力が不足していると考えられた雇用主の割合】

高卒者に不足する能力		大卒者に不足する能力	
文書によるコミュニケーション	81%	文書によるコミュニケーション	28%
リーダーシップ	73%	リーダーシップ	24%
プロ意識／労働倫理	70%	プロ意識／労働倫理	19%
批判的思考／問題解決能力	70%	創造性／イノベーション	17%
生涯学習／自己主導性	58%	生涯学習／自己主導性	14%

## ●読解力が高いと経済的に恵まれた仕事につける確率が高い

- ・ Proficient reader（優秀）の60%以上は、管理職、もしくはビジネス、経済、専門職などの仕事をしている。
- ・ Basic reader（基礎）の場合は18%しかこれらの分野で働いている人はいない。
- ・ Proficient reader は、週に850ドル以上を稼ぎ、Basic reader の約2.5倍である。

## ■ Kids & Family Reading Report

「Kids & Family Reading Report」は、Scholastic 社（児童向け出版・教育事業）が 2006 年から隔年で行っている調査である。同調査は全米の 6～17 歳までの子どもと保護者を対象としている。2010 年の主な調査結果を以下に紹介する。なお、2010 年のサンプル数は 2,090 サンプル（内、子どものサンプル数は 1,045 サンプル）であった。<sup>06</sup>

- 保護者は、電子機器、デジタル機器の利用は、子ども達の読書時間に悪い影響を与えていると思っている(41%)、身体活動に悪い影響を与えていると思っている(40%)、家族との関わりに悪い影響を与えていると思っている(33%)。
- 6 歳から 17 歳までの年齢の子ども達は、読書時間が減少しているのに対し、趣味のインターネット利用や、携帯電話でのメールや通話時間は増加している。
- 1 週間から 2 週間、子どもに利用をやめてほしいと両親が思っている機器は、テレビ、テレビゲーム、携帯電話。
- 上記について、6 歳～8 歳の女の子(41%)と、9 歳～11 歳までの女の子 (44%) の両親は、テレビと回答した。対して、6 歳～8 歳の男の子の両親はテレビ(28%)とテレビゲーム(27%)に分かれた。8 歳以降、男の子の両親はテレビゲームを選択する傾向が高く(33%)、女の子の親は携帯電話(24%と 41%、それぞれ 12 歳～14 歳と、15 歳～17 歳の女の子の親)を選ぶ傾向が高かった。
- デジタル機器で読書をしたことがある子ども（コンピュータを含む）は 25% だけだったが、多くの子ども達（9 歳～17 歳の 57%）は興味があると回答した。もし電子図書にアクセスすることができたらもっと読書をするか、という質問には、よく読書をする子（34%）、まあまあ読書をする子（36%）、あまり読書をしていない子（27%）が YES と回答した。
- 読書を楽しむことによって得られる最も重要な成果は何かという質問に対しては、9 歳～17 歳の子ども達の 43% は「想像力を養うため」、36% は「インスピレーションを受けるため」、またそれには及ばないが 21% が「新しい情報を得るため」と回答した。保護者もまた同じような考えを持っている（43%、35%、22%）。
- 子どもに読みたい本を選ばせることが、読書をする子どもを育てる重要なポイントであることは明らかである。10 人中 9 人の子どもが、自分で選んだ本は最後まで読み終わることが多いと答えた。保護者もまた選択するということの重要性を認識しており、10 人中 9 人の保護者が「子どもが読書をするなら、彼／彼女が好きな本を読ませたい」と回答している。
- 読みたい本を選択させるということに加えて、そのほかにもっと読書を促す方法として挙げられたのは、興味深い本を家に置くようにする（9-11 歳、15-17 歳の子どもに対して）、電子機器の利用時間に制限を設ける（9-11 歳の子どもに対して）、子どもが好きそうな本を提案する（12-14 歳の子どもに対して）、などである。

**(4) 参 考 資 料**

- 
- 01 : 2006 年度 国立国会図書館調査研究報告書「米国の図書館事情に関する調査研究」  
<http://current.ndl.go.jp/series/no40>
- 02 : Public Library Survey Fiscal Year 2009(Institute of Museum and Library Services)  
[https://harvester.census.gov/imls/pubs/pls/pub\\_detail.asp?id=140#](https://harvester.census.gov/imls/pubs/pls/pub_detail.asp?id=140#)
- 03 : Everybody Wins ! USA  
[http://www.reading-worldwide.de/instset\\_e.html?Id=10992](http://www.reading-worldwide.de/instset_e.html?Id=10992)
- 04 : 田中敏「米国の読書推進活動—Big Read が図書館にもたらすもの—」(カレントアウェアネス No.303 2010年3月20日)  
<http://current.ndl.go.jp/ca1708>
- 05 : "To Read or Not To Read" (全米芸術基金)  
<http://www.nea.gov/news/news07/TRNR.html>
- 06 : Kids & Family Reading Report  
[http://mediaroom.scholastic.com/themes/bare\\_bones/2010\\_KFRR.pdf](http://mediaroom.scholastic.com/themes/bare_bones/2010_KFRR.pdf)
- 07 : 米国学校図書館員協会 (AASL) School Libraries Count!  
<http://www.ala.org/aasl/sites/ala.org.aasl/files/content/researchandstatistics/slcsurvey/2011/AASL-SLC-2011-FINALweb.pdf>
- 08 : THE CONDITION OF U.S. LIBRARIES: SCHOOL LIBRARY TRENDS, 1999 - 2009  
[http://www.ala.org/research/sites/ala.org.research/files/content/librariystats/librariymediacenter/Condition\\_of\\_Libraries\\_1999.20.pdf](http://www.ala.org/research/sites/ala.org.research/files/content/librariystats/librariymediacenter/Condition_of_Libraries_1999.20.pdf)
- 09 : Public and Bureau of Indian Education Elementary and Secondary School Library Media Centers  
<http://www.ala.org/aasl/sites/ala.org.aasl/files/content/researchandstatistics/surveydata.pdf>
- 10 : Survey of State Libraries Finds that 39% of US Libraries Lag Behind in Providing Ebooks  
[http://www.cosla.org/documents/Press\\_Release\\_on\\_Downloadable\\_Media\\_Survey\\_261.pdf](http://www.cosla.org/documents/Press_Release_on_Downloadable_Media_Survey_261.pdf)  
<http://current.ndl.go.jp/node/20149>
- 11 : Association of American Publishers  
<http://publishers.org/press/44/>
- 12 : New Book Titles and Editions, 2002-2010 (Bowker)  
[http://www.bowkerinfo.com/pubtrack/AnnualBookProduction2010/ISBN\\_Output\\_2002-2010.pdf](http://www.bowkerinfo.com/pubtrack/AnnualBookProduction2010/ISBN_Output_2002-2010.pdf)
- 13 : JCAST ニュース  
<http://www.j-cast.com/2012/06/18136051.html?p=all>

※以下の参考文献は各国共通

- A. 『白書出版産業 2010』(日本出版学会 著, 編集)
- B. Progress in International Reading Literacy Study (PIRLS)  
[http://www.iea.nl/pirls\\_2011.html](http://www.iea.nl/pirls_2011.html)
- C. 各国地域情勢 : 各国の面積、人口データ (外務省)  
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html>
- D. PISA  
[http://www.pisa.oecd.org/pages/0,2987,en\\_32252351\\_32235731\\_1\\_1\\_1\\_1\\_1,00.html](http://www.pisa.oecd.org/pages/0,2987,en_32252351_32235731_1_1_1_1_1,00.html)



## 2 カナダの読書環境・読書活動の実態

### 参考データ

- 国土面積: 998.5 万 k m<sup>2</sup> (2012 年現在)
- 人口規模: 約 3,411 万人 (2011 年度 現在)
- 識字率: 99% (2003 年現在)

### (1) 読書環境

#### ① 出版・書店の現状

##### a) 出版産業の売上高

2009 年のカナダ出版産業の事業収益は、前年度から 1.6% 増加し 21 億 9 千万ドルであった。収益の増加は、ケベック州とオンタリオ州における売り上げの増加によるものである。

ケベック州では、2008 年の増加を上回り、事業収益は 2020 万ドル (3.0%) 増加した。オンタリオ州では、様々な種類の出版物で、収益は 2,670 万ドル (2.0%) 増加した。給与、賃金、福祉手当はすべての支出の 21.2% を占め、2009 年から 1.7% 増加した。

また、カナダ出版協会によると、カナダの図書出版業界の売り上げは引き続き上昇傾向にあり、1,100 万人の英語圏カナダ人の読書量は約 25 年前に比べ倍増しており、海外へのカナダ図書の輸出は約 15 年前に比べ 3 倍に増加している。<sup>01・02</sup>

図表 11 出版産業の売上高

	2005 年	2006 年	2007 年	2008 年	2009 年
営業収益(百万ドル)	2145.4	2131.5	2155.1	2155.3	2190.7
営業経費(百万ドル)	1889.8	1910.8	1918.2	1914.5	1929.4
給与、賃金、手当	365.5	396.9	409.8	401.8	408.7
営業利益率(%)	11.9	10.4	11.0	11.2	11.9

出所: Book Publishers (Statistics Canada)

b) 書籍・雑誌の流通の仕組み

■書籍流通の概要

カナダは、広大な国土に比して人口は少ないという特徴を有しており、比較的、市場が小さい。書籍販売のような規模の経済性は、このような規模の小さい市場では特に成功することが困難である。また、このような特徴がカナダにおける書籍のサプライ・チェーン構造に大きな影響を与えている。

カナダにおいては、東部地域（トロント等）に人口が集中しており、伴って出版社や販売業者、顧客基盤、倉庫等も東部に集積している。従って、カナダにおける出版物は、上記のような書籍関連事業者等の集積地から他の地域に流通されるという特徴がある。<sup>02</sup>

図表 12 書籍の流通ルート（俯瞰）



Figure 1. The geography of the book supply chain in Canada's English-language market.

出所：Book Distribution in Canada's English-Language Market（カナダ遺産省）

■カナダの英語市場における書籍サプライ・チェーン

サプライ・チェーンにおける様々な企業を簡潔に分類するのは難しい。企業によっては複数の役割を持ち（流通業者を兼ねる出版社、卸販売も行う書籍販売業者など）、サービスはそれぞれの企業の顧客に合わせて、多様な組み合わせでパッケージ化され提供されることもある。

図表 13 書籍のサプライ・チェーン（例）

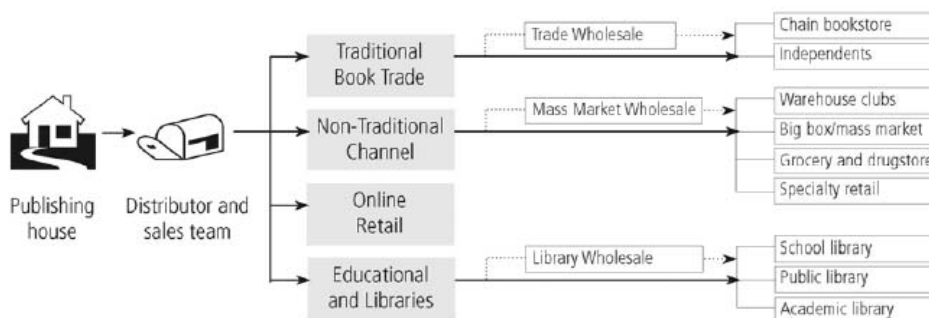


Figure 2. Major sales channels and trading partners in the book supply chain<sup>2</sup>.

出所：Book Distribution in Canada's English-Language Market（カナダ遺産省）

サプライ・チェーンにおける主要なプレーヤーとしては以下が挙げられる。

- (a) 出版社：書籍の著作権を獲得し、販売のための準備をする
- (b) 流通業者：幅広いオーダー・プロセス、倉庫保管、フルフィルメント、収集機能
- (c) 販売代理店：顧客への販売、サポート
- (d) 卸売業者；小売業者へ販売
- (e) 小売業者：顧客取引、小売業者・機関なども含む

また、カナダ遺産省から助成金を受けている非営利団体 **BookNet Canada** は、カナダのサプライ・チェーン改良に着目し、これらのすべてのエリアに過去5年間で以下のような新システムを導入してきた。<sup>02</sup>

- ・ **Canadian Bibliographic Certification**（書誌データ基準）
- ・ **Pubnet**（Bowker による電子データ交換サービス）
- ・ **BNC SalesData**（店舗販売時点情報管理システム）。

#### **■アメリカとの競争と **Canada Magazine Fund** の設立**

雑誌出版業界では、2000年に連邦政府と世界貿易機構(WTO)との協定により、アメリカ出版雑誌のカナダ版出版に伴う広告収入のアメリカへの流出防止とカナダの広告市場保護のための税制措置が廃止され、アメリカ出版雑誌との競争を余儀なくされた。これを受けて同年、カナダ人がカナダ雑誌を講読する機会を確保し、出版業界を保護するため、連邦政府により1億5千万ドルの **Canada Magazine Fund** が設立された。連邦政府はこのほかにも、カナダ雑誌のシェアを拡大するためカナダ・カウンシルなどを通じて出版関連の助成を行なっているが、カナダで出版された雑誌は、市場全体の30%に留まっている。<sup>03</sup>



## ② 図書館等の現状

### a) 図書館制度及び司書制度の状況

#### ■図書館制度

カナダにおける図書館行政は各州政府が担っている。基本的に、それぞれの州政府が各州独自の図書館法に基づき、公共図書館を設置・運営している。州政府は図書館に資金を直接的に、または自治体に交付する。

連邦政府には、公共図書館を所管する独立した部門は存在しない。連邦政府と公共図書館との関わりは、連邦政府が行う特別な事業（地域社会のインターネットアクセス推進等）の際に、公共図書館に対して補助金を提供する場合などに発生するのみである。

また、カナダの図書館職として、「司書」「蔵書、文書と記録管理のテクニシャンとアシスタント」「図書館事務職」が存在する。<sup>17</sup>

### b) 図書館/学校図書館の施設数

#### ■公共図書館

公共図書館について、1999年以降、全国の図書館を対象にした統計調査は行われていない。1999年時点の公共図書館に関するデータは、下記の通り。

- ・ 910の公共図書館、2,739のサービス拠点がある。国立図書館は1館。
- ・ 州立図書館5館、準州立図書館3館で、州および準州レベルでは計11のサービス拠点がある（カナダでは、州は10、準州は3存在している）。

以下、都市部の図書館に限られるが、最新情報として、AN ANALYSIS OF PUBLIC LIBRARY TRENDS(2011年4月)より、カナダ都市図書館協議会（Canadian Urban Libraries Council : CULC）が2000年から2009年まで毎年集計したデータ分析の結果をみていく。

CULCのメンバーには、カナダの大規模な図書館のほとんどが含まれる。CULCのメンバーである35の図書館及び定期会員である9つの図書館に関するデータは以下の通り（データは2009年平均）。

カナダの図書館には、609の支店があり、施設の合計面積はおよそ1千万平方フィートで、大規模なスーパーマーケット200店舗分に相当する。<sup>04</sup>

- ・ カナダ全土における都市の中心地で、1,758万9000人のカナダ人が利用対象である
- ・ 現時点で、図書館の利用登録者は822万1,000人である
- ・ 609の支店があり、施設の合計面積はおよそ1千万平方フィートで、大規模なスーパーマーケット200店舗分に相当する
- ・ フルタイム及びパートタイムの職員は13,000人以上
- ・ 毎年約1億800万人の利用者を受け付けている
- ・ 毎年貸し出される図書は2億11,00万冊で、そのうち子ども向けの図書は7,100万冊
- ・ 利用者向けのプログラムを毎年418万4,000実施し、そのうち296万4,000が子ども向けのプログラムである
- ・ 蔵書数は約5,100万冊

出所：AN ANALYSIS OF PUBLIC LIBRARY TRENDS(2011年4月)(CANADIAN URBAN LIBRARIES COUNCIL)

## ■学校図書館

2003年の統計（2003/2004 Information and Communications Technologies in Schools Survey）によれば、カナダの初等・中等学校の93.3%（小学校：95.4%、中学校：90.7%）に図書館が存在する。<sup>14</sup>

図表 14 学校図書館を有する学校の割合

合計	小学校	中学校
93.3%	95.4%	90.7%

出所：2003/04 Information and Communications Technologies in Schools Survey (Statistics Canada)

### c) 図書館/学校図書館の蔵書数・司書数(職員数)

#### ■蔵書数（公共図書館）

1999年の情報では、7,500万冊が2,739の公共図書館によって所蔵され、400万冊が州、準州立図書館によって所蔵されている。2009年度のCULC（カナダ都市図書館協議会）メンバーの図書館の蔵書数は約5,100万冊である。<sup>04 18</sup>

#### ■職員数（公共図書館）

CULC（カナダ都市図書館協議会）メンバーの図書館のフルタイム及びパートタイムの職員は13,000人以上である。<sup>04</sup>

#### ■職員数（学校図書館）

2003-04年度、カナダの学校図書館の38.0%には司書教諭がいた。そのうち、13.3%はフルタイム、24.7%はパートタイムだった。全体で、プリンス・エドワード島は学校における司書教諭の割合が最も高く(75.4%)、34.8%がフルタイム、40.6%がパートタイムだった。

ブリティッシュ・コロンビア州における学校でも高い割合(74.8%)で司書教諭を保有しており、そのうち19.7%がフルタイム、55.1%がパートタイムだった。オンタリオ州でも全国平均より高い割合の司書教諭がおり(54.9%)、21.8%がフルタイム、19.7%がパートタイムだった。司書教諭の保有率が最も低かったのはケベック州で、フルタイムの司書教諭はたった2.0%、パートタイムは1.4%だった。

近年のデータから、カナダの学校図書館からはフルタイムの職員のポジションが、パートタイムに変わるか、もしくは全く無くなってしまっていることがわかる。地域別の学校図書館データをみると、オンタリオ州の小学校ではフルタイムの図書館職員数が1998-99年度以降、60%も減少している。専門の図書館職員の削減による弊害として、学校図書館の蔵書の老朽化、既存の図書館へのアクセスの減少などが挙げられている。<sup>13</sup>

図表 15 学校図書館における専門職員有無の割合(2003/04 年度)

	図書館専門員		司書教諭	
	フルタイム	パートタイム	フルタイム	パートタイム
ニューファンドランド・ラブラドール	-	-	12.7%	37.0%
プリンス・エドワード島	-	-	34.8%	40.6%
ノヴァスコシア	28.3%	24.4%	5.4%	2.3%
ニューブランズウィック	11.6%	29.9%	4.5%	7.2%
ケベック	17.2%	5.1%	2.0%	1.4%
オンタリオ	17.1%	16.3%	21.8%	33.1%
マニトバ	29.2%	21.9%	10.2%	13.6%
サスカチュワン	29.1%	30.4%	9.4%	33.8%
アルバータ	33.7%	22.4%	3.6%	9.1%
ブリティッシュ・コロンビア	5.6%	9.5%	19.7%	55.1%
<b>カナダ合計</b>	<b>18.7%</b>	<b>15.3%</b>	<b>13.3%</b>	<b>24.7%</b>

※「-」は算出不可

出所：2003/04 Information and Communications Technologies in Schools Survey (Statistics Canada)

プリンス・エドワード島とブリティッシュ・コロンビア州は、生徒 1,000 人に対する司書教諭の割合が最も高かった。プリンス・エドワード島は、1.60 人の司書教諭、対してブリティッシュ・コロンビアは 1.53 人であった。オンタリオ州は 1,000 人の生徒に対する司書教諭の割合は 1 人以下で、アルバータ州とノヴァスコシア州は最も低い 0.19 人と 0.14 人であった。<sup>13</sup>

図表 16 生徒 1000 人に対する図書館専門員及び司書教諭の数(2003/04 年度)

	図書館専門員	司書教諭
ニューファンドランド・ラブラドール	-	0.87
プリンス・エドワード島	-	1.60
ノヴァスコシア	1.17	0.14
ニューブランズウィック	0.75	0.72
ケベック	0.48	0.22
オンタリオ	0.55	0.93
マニトバ	1.46	1.36
サスカチュワン	1.89	1.18
アルバータ	1.42	0.19
ブリティッシュ・コロンビア	0.27	1.53
ユーコン	-	1.45
ノースウエスト	1.17	-
ヌナブト	-	-
カナダ合計	0.69	0.79

※「-」は算出不可

出所：2003/04 Information and Communications Technologies in Schools Survey (Statistics Canada)

図表 17 図書館の職員人数(2003/04 年度)

	司書 教諭	教員 (司書 以外)	司書	図書館 専門員	事務 職員	その他	合計
ニューファンドランド・ラブラドール	80	25	-	-	9	9	136
プリンス・エドワード島	39	-	-	-	-	-	50
ノヴァスコシア	29	-	19	179	24	-	266
ニューブランズウィック	28	12	17	87	39	35	218
ケベック	72	281	166	484	371	168	1,542
オンタリオ	1,908	167	108	1,166	534	154	4,037
マニトバ	121	20	27	292	188	44	692
サスカチュワン	180	-	-	320	133	52	714
アルバータ	107	88	61	759	365	159	1,539
ブリティッシュ・コロンビア	848	52	-	169	381	73	1,544
ユーコン	10	-	-	-	-	-	19
ノースウエスト	-	-	-	10	-	-	21
ヌナブト	-	-	-	F	-	-	7
カナダ合計	3,424	679	3,476	3,476	2,060	712	10,784

※「-」は算出不可

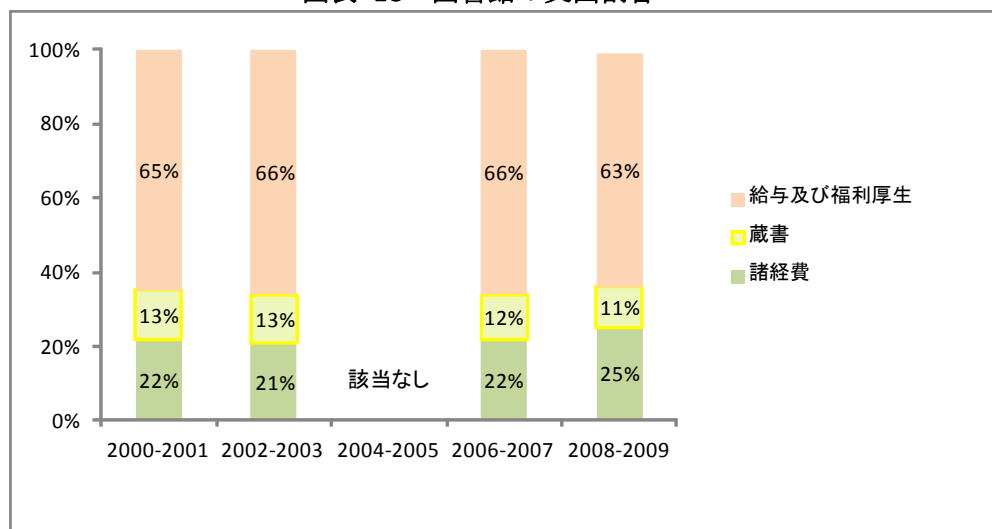
出所：2003/04 Information and Communications Technologies in Schools Survey (Statistics Canada)

d) 図書館/学校図書館の予算規模(国と地方との負担割合含む)

■ 予算 (公共図書館)

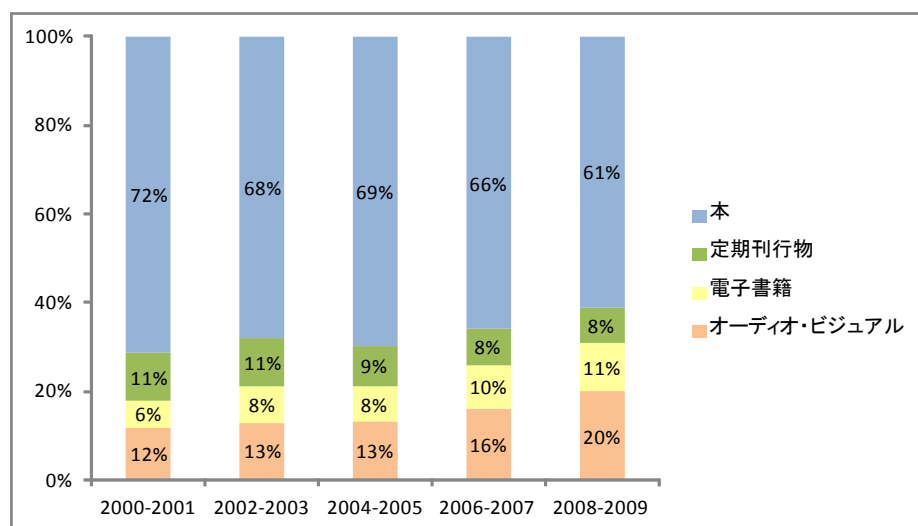
カナダの図書館では、蔵書に係る支出は、過去 10 年間で増加しているが、諸経費も増加して予算を圧迫している。このため、図書館費用における蔵書費用の割合は 2000 年の 13% から 11% へ減少している。

図表 18 図書館の支出割合



出所：AN ANALYSIS OF PUBLIC LIBRARY TRENDS (CANADIAN URBAN LIBRARIES COUNCIL)

蔵書費用のなかでも、本と定期刊行物の経費はより少なく、過去 10 年間で電子図書やオーディオ・ビジュアルにかかる費用は大幅に増加している。



出所：AN ANALYSIS OF PUBLIC LIBRARY TRENDS (CANADIAN URBAN LIBRARIES COUNCIL)

蔵書にかかる費用は図書館利用の増加において重要な役割を占める。利用者一人当たりの蔵書にかかる費用が上位 3 分の 1 にはいる図書館は、下位 3 分の 1 の図書館の 2 倍の利用回数がある。

図書館に必要な予算の大部分は自治体によって賄われている。過去 10 年間、州政府による資金提供は図書館のニーズに追いついておらず、連邦政府の補助金は総収入のわずか数パーセントにすぎない。<sup>04</sup>

### ■予算（学校図書館）

カナダの学校における典型的な図書館では、図書の購入や職員を雇用するための予算に乏しい。このような状況については、カナダ統計局（Statistics Canada）によって報告されており、学校関係者や、保護者が大きな関心を示した。<sup>13</sup>

例えばオンタリオ州の小学校では、25年前には42%だったフルタイムの司書教諭が10%になり、アルバータ州では、勤務時間が半日以上の司書教諭は1978年以降550人から106人にまで減少した。ブリティッシュ・コロンビア州では、教育委員会の資金レベルは、図書館の年度予算における大きな矛盾を明らかにしている。生徒一人当たりにつき年間80セントから35ドルまでの幅があり、これは図書館の発展のための資金ではなく維持費用のみである。多くの区域では、ほとんどの学校で保護者による資金集めが一般的なものになっており、恵まれた地域とそうでない地域との間で社会的格差が広がっている。<sup>11</sup>

#### e) 図書館/学校図書館の利用者数・貸出冊数

### ■利用者数（公共図書館）

CULC（カナダ都市図書館協議会）メンバーの図書館は、カナダ全土における都市の中心地で、1,758万9000人のカナダ人が利用対象である。現時点で、図書館の利用登録者は822万1,000人である。毎年約1億800万人の利用者を受け付けている。<sup>04</sup>

### ■図書館の利用状況（公共図書館）

CULC（カナダ都市図書館協議会）メンバーの図書館の一人当たりの図書館利用回数は、過去10年で、平均で16.6回から24.1回になり45%増加している。

この増加の大部分は、情報のデジタル化によってもたらされている。たとえば、電子データベースの利用（図書館のインターネットの定期利用や、CDR等のデータベース）が2倍以上になり、図書館のウェブサイトやカタログへのインターネットアクセスは5倍になった。

ウェブサイト利用の急速な増加に対し、電子データベースの利用はまだ始まったばかりで、2009年には一人当たり0.71%の利用に留まり、全体の利用の3%以下だった。図書館は、今後予想されるデータベース利用の大幅な増加に備える必要がある。<sup>04</sup>

## ■貸出数（公共図書館）

1999年の情報では、年間に公共図書館により平均で265,000点のアイテムが貸し出され、44,000点が州、準州立図書館により貸し出された。公共、州、準州立図書館の合計の貸し出し数は2億4,200万点に達した。

CULCメンバーの図書館では、毎年貸し出される図書は2億11,00万冊で、そのうち子ども向けの図書は7,100万冊となっている。<sup>04</sup>

## ■サービス（公共図書館）

CULCメンバーの図書館では、利用者向けのプログラムを毎年418万4,000件実施し、そのうち296万4,000件が子ども向けのプログラムである。<sup>04</sup>

### f) 電子書籍への対応

過去10年間で電子図書やオーディオ・ビジュアルにかかる費用は大幅に増加している。電子図書やオーディオ・ビジュアルにかかる費用の割合は、2000 - 01年から2008 - 09年の間に18%増加している。<sup>04</sup>

多くの図書館では現在、電子図書やオーディオブック、音楽や映画が、電子書籍リーダーやコンピュータ、MP3プレーヤーやスマートフォンにダウンロードできるようになっている。例えば、モンリオール図書館は現在、200,000冊以上の電子図書を貸出可能にする計画を立てている。<sup>15</sup>

### Kingston Frontenac Public Library の WEB サイト

#### 電子図書の貸出のページ

The screenshot displays the website for Kingston Frontenac Public Library (KFPL). The header includes the library name and tagline 'Information and enrichment for everyone'. Navigation links include Home, About the Library, Branches & Hours, Library Services, Search Our Collections, Programs & Events, My Account, Contact Us, Site Index, and Help. A search bar is present with options for 'All' and 'Only Available Copies'. The main content area is divided into several sections:

- Powered by OverDrive:** A sidebar menu with options like Digital Home, My Digital Media Account, My Bookbag, Sign In, Browse Audiobook Fiction, Browse Audiobook Nonfiction, Browse eBook Fiction, Browse eBook Nonfiction, Browse Video, Browse Collections, Digital Media Help, Required Software, OverDrive® Media Console™, Adobe® Digital Editions, My Help!, and Need help? Get started here.
- iPod®-compatible Audiobooks!**: A carousel of audiobook covers including 'Hold Tight' by Harlan Coben, 'The Pyramid' by Henning Mankell, 'The Shell Seekers' by Rosamunde Pilcher, and 'The Kid' by Sapphire.
- New Video Additions**: A carousel of video covers including 'The Third Man' by Orson Welles, 'They Call Me Trinity' by E.B. Clucher, 'All The Wrong Places' by Martin Edwards, and 'Angel on My Shoulder' by Paul Muni.
- Newly Released**: A carousel of book covers including 'Feminism' by Michael Kaufman, 'Hedy's Folly' by Richard Rhodes, 'Out of My Mind' by Andy Rooney, and 'Dinosaur' by David Lambert.
- Most Popular**: A carousel of book covers including 'My Spiritual Journey' by The Dalai Lama, 'The Diary of a Young Girl' by Anne Frank, 'The Best Laid Plans' by Terry Fallis, and 'Mockingjay' by Suzanne Collins.

## **(2) 読書推進活動**

---

カナダにおける読書推進活動として、例えば以下のようなものが挙げられる。

### **■ティーンリーディングクラブ**

---

カナダでは、地域の図書館、州、国が各レベルで子ども読書推進活動に取り組んでおり、BC州からカナダ全土に広まったティーンリーディングクラブのように、州主催で全国的に成果を上げているプログラムもある。また、児童書専門の国の非営利組織があつて活発に読書推進活動を担い、図書館と協働している。<sup>05</sup>

### **■International Festival of Authors**

---

International Festival of Authors は、毎年秋に、トロントのハーバーフロントで、世界各国から作家を集めて開催される。招かれた作家たちは、自分の作品を一部読み聞かせ、文学に関する講演を行ったり、参加者と議論をしたりする。<sup>06</sup>

### **■The Word On the Street Book & Magazine Fair**

---

カルガリー、ハリファックス、キッチナー、トロント、バンクーバーのカナダ 5 都市で年に一度開催される一般市民への図書館の普及に努めるブックフェア「The Word On the Street Book & Magazine Fair」では、出版社、書店、文芸協会、図書館などがブースを出展し、トロントでは約 17 万人の市民が参加しており、一大図書イベントとして定着している。<sup>03,07</sup>

### **■National Reading Campaign**

---

カナダにおける政府の読書戦略の周知活動として、「National Reading Campaign」が実施されている。

同キャンペーンは、読者（国民）、作家、編集者、司書、書店の経営者、教師、出版社や流通業者が連携し、カナダ人の変わりゆく読書習慣についての評価・考察を行うことを目的として、2008 年にスタートした。

カナダでは、これまでも個々の地域やコミュニティが読書推進活動を行ってきたが、公共の読書活動としてイニチアチブをとるのは学校と図書館が最も一般的であるが、どちらも地方自治体の管轄であり、国としての読書推進戦略は統合されていなかった。

同キャンペーンの最終目標は、民主的な市民関与のツールとして、また、すべてのカナダ人を平等にする手段として、自分自身について学ぶための方法として、また喜びを得るための手段として、読書の価値を創造し、すべてのカナダ人に読書を推進する戦略をつくることである。

最初のフォーラムは 2008 年に開催され、その後、同キャンペーンは 3 回の読書サミット



へと発展していった。第1回サミットは2009年にトロントで開かれ、第2回は2011年にモントリオールで、第3回は2012年5月にバンクーバーで開かれた。<sup>08</sup>

### 【National Reading Campaign の概要】

#### <TD National Reading Strategy Summit: Working Group Summary>

TD National Reading Summit では、作家、教育者、司書、学者、出版社、ビジネスリーダー、また、カナダの読書計画に関心がある役人などが集まった。国内外からの講演者は、読書推進プログラムの実施にあたって自分たちの研究や経験をシェアし、国・地方自治体の代表者が新しいプログラム及び指針、実施のための基礎をつくる。<sup>08</sup>

#### 概要

第一回 TD Bank National Reading Summit (TD バンク・全国読書サミット) が開催された年以降、運営委員会のメンバーは参加者、ボランティアをカナダ全国から募り、関心のある分野に集中できるようにワーキンググループを結成した。既存のプログラムの評価とサービスのギャップ、結果と今後のビジョンを第二回サミットのために報告する。

ワーキンググループのテーマは、以下の通り。<sup>08</sup>

- ・乳幼児
- ・公共図書館と学齢児童
- ・高校生、大学生向けの読書キャンペーン
- ・アボリジニ・カナダ人
- ・新しいカナダ人
- ・大人の生涯学習
- ・平等性とアクセス
- ・保護者グループ
- ・早期の読み書きプログラム
- ・ケベックとフランス語圏のカナダ

#### 共通議論テーマ

カナダは諸外国が実施しているような全国規模の読書計画を持っていない。カナダの政策立案者は機能的な読み書き能力、職業訓練、上昇する標準テストのスコアなど、すべてのレベルで注目しているが、読書家の国を作り出すための計画は存在しない。

ワーキンググループのうちいくつかは、効果的な地域プログラムについての情報センターとして、また読書の社会的・文化的な重要性を推進するための公共政策のイニシアチブの提唱者としての役割を持つ全国的な読書機関の設立に興味を示した。

それぞれのワーキンググループは、極めて限られた資源で運営され、公共、民間、コミュニティや非営利団体からの熱心な個人のネットワークに依存している地域のプログラム

を特定することができた。

そのようなプログラムは限られた地域ではあるが、結果として、資金不足にも関わらず、幅広い方策の枠組みと人材を獲得することができた。

その他の共通の議論テーマは以下が挙げられる。<sup>08</sup>

1. 組織、機関の連携の重要性	自治体の図書館と、公共健康施設など。これらのプログラムは、複数のパートナーからの資金を活用し、コミュニティ、家庭における読書を推進する彼らの努力によって、より多くの人にアクセスすることができた。
2. プログラムの見直し	既存の読書プログラムのいくつかは、政府の経費削減やその他の優先事項への資金提供優先により、しばしば切迫した資金削減または、完全なプログラムの中止に直面する。
3. 読み書き能力	読み書き能力に関する実用的な構想は、教育機関及び成人の読み書き訓練プログラムにおいて広がっていく。喜びをもたらす読書をするための創造的な方法を生徒たちに教えるというよりも、教師や教育政策決定者たちは、読み書きを、目的を達成するための手段とみなしている。労働力及び国家の経済生活への生産的な参加など。多くの事例では、学校は伝統的な教科書の読書リストを拡大する努力をほとんどしていない（ライ麦畑でつかまえて、蠅の王など）。
4. 場所の問題	学校や図書館はすべてのコミュニティに存在するが、大都市で働く読書活動家は、小規模もしくは田舎のコミュニティで働く人と全く異なる困難に直面する。例えば、実質的に図書館への資金提供がない、先住民族の保留地などの問題だ。地方によってプログラムは多様に変化する。
5. アクセス	読書推進の主要な側面は、適切な時期に、適切な読者に適切な本を与えることだ。例えば、新しい移民、特に若者は、影響力が強く、読むのが易しいもの（"Rapid Reads/Good Reads" など）にもっとアクセスできるようにする必要がある。

## 成功事例

National Reading Campaign により創出された成功事例としては以下が挙げられる。<sup>08</sup>

対象	概要
乳幼児	カナダ小児科学会の Read, Speak, Sing プログラムでは、医師が保護者に対し「子どもに毎日本を読み聞かせるように」という「処方箋」を提供する。その他の成功した事業は、Parent Child Mother Goose という 24 年間提供されている全国プログラムで、パートナーと地元の機関が、乳幼児とその保護者に対し読書プログラムを提供する。モントリオールでは、“Contact, le plaisir des livres” という公共図書館と自治体が連携し、乳幼児のいる家庭にブック・バッグとその他の品物を提供するプログラムがある。
学齢児童	TD Bank Summer Reading Club のような図書館ブッククラブや、オンタリオ図書協会の Forest of Reading シリーズのようなリーダーズ・チョイス・プログラムなどは多くの参加者を集めている。
高校／大学	TeenRC.ca は 2005 年にブリティッシュ・コロンビアで 13 歳から 18 歳までの子ども達を対象に夏季の読書クラブとして発足した。2007 年までにこのクラブは人気を得たため、1 年を通じてその他の 7 つの地域でも実施されるようになった。現在までに

	650 の公共図書館と 3,000 人のティーンエイジャーが参加した。
大人向けの生涯学習・読書推進活動	CBC's Canada Read がその一例である。5 冊の 1 次選考に残った本が議論を経て勝者に選ばれる。似たようなプログラムには、全米芸術基金 (U. S. National Endowment for the Arts) の "Big Read" キャンペーンがあり、これは助成金によって 75 地域で運営されている。
アポリジニ	アルバータ大学とホッペマ先住民の COGENT (説得力のある) プログラムは、認識力、言語/識字能力、理解力と、言葉・文章・物語・音と文字との関係について焦点を当てている。35 分間のセッションを週に 3 回、1 年間受けたあと、73% の生徒は読書能力が改善されている。
平等性/アクセス	ブリティッシュ・コロンビアのチリワックでは、社会的に弱い立場にある家庭の、本に接する機会のない子どもを対象とした Read While You Wait が実施されている。このプログラムでは、公営住宅や、矯正施設の面会室など、地域の様々な待合場所に本を設置している。
移民	母国語を話す大人のためのブッククラブがバンクーバー、カルガリー、トロントに存在する。移民を多数受け入れている都市には、学校や図書館に他言語に対応するスタッフや翻訳サービスがあり、NGO が新たに移住してきた人にサービスを提供している。
家族向けの読書プログラム	The Raise-Reader キャンペーンは、Postmedia Network Inc. によって運営されており、一年を通じてカナダ全国から家族の読書プログラムのための資金を募っている。また、読み書き能力を身につけることが、カナダの経済と社会生活にどれほど良い影響を与えるか、教育も行っている。

### (3) 読 書 活 動

近年のカナダの国民の読書活動（読書率など）に関する調査として、例えば、以下が挙げられる。

#### ■PISA

世界各国の15歳（高校1年生）を対象に行われるOECD生徒の学習到達度調査（PISA）の2009年のカナダの調査結果では、「趣味で読書をすることがない（31.1%）」「1日30分以下（30.5%）」「1日31分～1時間未満（19.0%）」「1日1時間～2時間（13.3%）」「1日2時間より長い（6.0%）」となっている。<sup>D</sup>

#### ■National Book Count

第一回 National Book Count（調査主体：National Reading Campaign）によると、カナダの読書活動実態として以下のようなことが分かった。<sup>09</sup>

- 調査によると、カナダ人は2011年1月10日から16日までの間に、271万4千946冊の本を買うか借りるかした。
- 書籍の購入数と図書館の貸し出し数は近い数字になっている。
- 国内の260以上の独立した書店とその他のチェーン店、及びIndigo Books & MusicとAmazon.caを含む小売店では1,110,568冊の本が売れた。
- 公共図書館システムに参加する22の図書館では、1,604,378冊の本が貸し出された。（この部数は1,120万人のカナダ人を対象としている。）

※National Reading Campaign：読者、保護者、作家、編集者、司書、書店経営者、教師、出版社及び販売会社から成る団体。読書研究のために2008年に設立された

※集められたデータはNational Reading Campaignが統合し、22の公共図書館システムと、英語書籍の小売市場の80%と、40のフランス語小売市場をカバーしている。個人の消費者の情報は集計されていない。オンラインの紙の書籍販売に関してはAmazon.caとIndigo.caを含む主要なオンライン小売店からデータを集めている。電子書籍のダウンロードは公共図書館のデータは含むが、小売店のものは含まない

**(4) 参 考 資 料**

---

- 01 : Statistics Canada  
<http://www.statcan.gc.ca/pub/87f0004x/2011001/aftertoc-aprestdm1-eng.htm>
- 02 : Book Distribution in Canada's English-Language Market  
[http://www.pch.gc.ca/pc-ch/org/sectr/ac-ca/pblctns/bk\\_dstrbtn\\_lv/dst\\_eng/pdf-eng.pdf](http://www.pch.gc.ca/pc-ch/org/sectr/ac-ca/pblctns/bk_dstrbtn_lv/dst_eng/pdf-eng.pdf)
- 03 : 国際交流基金 文化交流基礎情報 (カナダ)  
<http://www.jpf.go.jp/j/about/survey/basic/canada/2-4-1.html>
- 04 : AN ANALYSIS OF PUBLIC LIBRARY TRENDS (2011年4月)  
[http://www.culc.ca/cms\\_lib/CULC%20Public%20Library%20Trends.pdf](http://www.culc.ca/cms_lib/CULC%20Public%20Library%20Trends.pdf)
- 05 : 水戸部 由美「カナダの子ども読書推進活動とそれを支える組織」(国際子ども図書館の窓第9号 2009.3)  
<http://www.kodomo.go.jp/info/child/foreign/pdf/2009-mado-light.pdf>
- 06 : International Festival of Authors  
<http://www.readings.org/>
- 07 : The Word On the Street Book & Magazine Fair  
<http://www.thewordonthestreet.ca/wots/>
- 08 : National Reading Campaign  
<http://nationalreadingcampaign.ca>
- 09 : National Book Count numbers (2011年1月)関連記事  
<http://arts.nationalpost.com/2011/01/19/national-book-count-numbers-are-in-canadians-purchaseborrow-2-7-million-books/>
- 10 : Reading and Book Buying Behaviour  
<http://www.pch.gc.ca/eng/1290797114127/1290797724067>
- 11 : The Crisis in Canada's School Libraries: The Case for Reform and Re-Investment(2003)  
[http://www.accessola.com/data/6/rec\\_docs/ExecSummary\\_Ha\\_E1E12.pdf](http://www.accessola.com/data/6/rec_docs/ExecSummary_Ha_E1E12.pdf)
- 12 : School Libraries and Student Achievement in Ontario  
[http://www.accessola.com/data/6/rec\\_docs/137\\_eqao\\_pfe\\_study\\_2006.pdf](http://www.accessola.com/data/6/rec_docs/137_eqao_pfe_study_2006.pdf)
- 13 : Who works in Canadian school libraries?  
<http://www.statcan.gc.ca/pub/87-004-x/87-004-x2003002-eng.pdf>
- 14 : 2003/04 Information and Communications Technologies in Schools Survey  
<http://www.statcan.gc.ca/pub/81-595-m/81-595-m2005028-eng.pdf>
- 15 : Canadian libraries thriving in ebook era (CTV News 2011.11.27)  
<http://m.ctv.ca/topstories/20111127/canadian-library-use-rising-in-ebook-era-111127.html>
- 16 : Reading and Buying books for pleasure  
<http://dsp-psd.pwgsc.gc.ca/Collection/CH44-61-2005E.pdf>
- 17 : 諸外国の公共図書館に関する調査報告書 カナダの公共図書館(2005年3月、文部科学省)  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shougai/tosho/houkoku/06082211/009.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/houkoku/06082211/009.pdf)
- 18 : 世界の統計 2010 (総務省統計局)